



2019年6月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月12日

上場会社名 株式会社総医研ホールディングス
コード番号 2385 URL <http://www.soiken.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石神 賢太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 田部 修

TEL 06-6871-8888

四半期報告書提出予定日 2019年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第2四半期の連結業績(2018年7月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|-------|------|------|-------|------|-------|------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2019年6月期第2四半期 | 4,017 | 43.9 | 278 | 108.3 | 288 | 104.4 | 119 | 102.8 |
| 2018年6月期第2四半期 | 2,791 | 37.3 | 133 | 657.8 | 140 | 556.0 | 59 | |

(注) 包括利益 2019年6月期第2四半期 129百万円 (131.5%) 2018年6月期第2四半期 55百万円 (%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2019年6月期第2四半期 | 4.58 | |
| 2018年6月期第2四半期 | 2.26 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|-------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2019年6月期第2四半期 | 5,825 | 4,712 | 78.3 |
| 2018年6月期 | 5,647 | 4,634 | 79.6 |

(参考) 自己資本 2019年6月期第2四半期 4,560百万円 2018年6月期 4,495百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2018年6月期 | | 0.00 | | 2.00 | 2.00 |
| 2019年6月期 | | 0.00 | | | |
| 2019年6月期(予想) | | | | 2.00 | 2.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年6月期の連結業績予想(2018年7月1日～2019年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|-------|------|------|------|------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 6,700 | 22.8 | 600 | 84.3 | 600 | 76.1 | 350 | 76.8 | 13.38 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|------------|--------------|------------|--------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2019年6月期2Q | 26,158,200 株 | 2018年6月期 | 26,158,200 株 |
| 期末自己株式数 | 2019年6月期2Q | 株 | 2018年6月期 | 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 2019年6月期2Q | 26,158,200 株 | 2018年6月期2Q | 26,158,200 株 |

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は、説明会開催後速やかに東京証券取引所ウェブサイト(東証上場会社情報サービス)及び当社ウェブサイトに掲載します。

(日付の表示方法の変更)

「2019年6月期 第2四半期決算短信」より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 5 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第2四半期連結累計期間 | 6 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 7 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (追加情報) | 8 |
| (セグメント情報等) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の我が国の経済は、自然災害の影響によるインバウンド需要の減速等から輸出が低調であったものの、雇用・所得環境の改善を背景として個人消費や住宅投資が堅調に推移したこと等から、緩やかながらも景気の回復基調が続きました。

我が国では、社会の高齢化を背景として医療費の増加が続く中、医療の効率的運営や予防医療の推進が必須の課題となっています。このような状況下、医療の適正かつ効率的な運用を目指す「EBM」（Evidence Based Medicine＝科学的根拠に基づく医療）の気運が高まっているほか、国策としても、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導の導入、全ての健康保険組合等における「データヘルス計画」（レセプト等のデータ分析に基づいた保健事業）の策定及び実施の義務付け等が行われています。また、アベノミクスの第三の矢である成長戦略における規制改革の一環として、食品等の機能性表示の規制が緩和され、企業責任によりエビデンス（科学的根拠）をもとに食品等に機能性を表示できる機能性表示食品制度が施行される等、当社グループの事業への追い風となり得る環境の変化が生じています。

このような状況下、当社グループでは、大学発のバイオマーカー技術に基づくエビデンスの構築と活用に関する実績やノウハウ、医学界や医療界における幅広いネットワーク等を活かし、医薬、食品、化粧品、ヘルスケア関連サービス等の様々な領域において、社会のニーズに対応した商品やサービスを開発して提供することにより、事業の拡大を図ってまいりたい方針であります。

また、当社は、2017年6月、ラクtofフェリンを中心とする機能性素材の開発及び販売等を事業とする（株）NRLファーマを連結子会社化いたしました。当社グループでは、今後、化粧品事業及び健康補助食品事業においてラクtofフェリンを使用した新商品開発を行う方針であるほか、同社とのシナジーを活かして、新規素材の開発にも積極的に取り組んでまいります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（生体評価システム）

生体評価システム事業のうち評価試験事業におきましては、主に食品の有効性に関する臨床評価試験の受託手数料等138百万円（前年同期比130.2%増）の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高99百万円（前年同期比28.5%減）、当第2四半期連結会計期間末の受注残高は295百万円（前年同期末比81.9%増）となりました。

生体評価システム事業のうちバイオマーカー開発事業におきましては、売上（前年同期はなし）、受注高（前年同期はなし）及び当第2四半期連結会計期間末の受注残高（前年同期末はなし）は何れもありませんでした。

生体評価システム事業のうち医薬臨床研究支援事業におきましては、主に糖尿病領域の医師主導型臨床研究の支援業務の受託手数料等157百万円（前年同期比4.5%減）の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高32百万円（前年同期比82.2%減）、当第2四半期連結会計期間末の受注残高は599百万円（前年同期末比22.8%減）となりました。

これらの結果、生体評価システム事業の業績は、売上高296百万円（前年同期比31.5%増）、営業利益47百万円（前年同期比346.4%増）となりました。

（ヘルスケアサポート）

ヘルスケアサポート事業は、特定保健指導の受託を中心として、企業における社員の健康管理・増進のニーズや個人の健康意識の高まり等に関連した様々なサービスを健康保険組合等に提供する事業であり、生活習慣病の専門医から成る組織である一般社団法人専門医ヘルスケアネットワークと共同で事業展開しております。当第2四半期連結累計期間におきましては、特定保健指導、被扶養者を対象とした特定健康診査のサポート、糖尿病の重症化予防サービス、レセプト解析の受託手数料等204百万円（前年同期比49.6%増）の売上計上を行いました。

また、受注状況につきましては、受注高204百万円（前年同期比49.6%増）、当第2四半期連結会計期間末の受注残高はありませんでした（前年同期末はなし）。なお、この事業の受注高は、主に特定保健指導の実績等に応じて事後的に決まるものでありますので、契約締結時点ではなく、当該実績等が確定した時点で計上しております。

この結果、ヘルスケアサポート事業の業績は、売上高204百万円（前年同期比49.6%増）、営業利益17百万円（前年同期は1百万円の営業損失）となりました。

（化粧品）

化粧品事業におきましては、通信販売部門の売上高は、販売の減少傾向は鈍化したものの伸び悩み、108百万円（前年同期比0.3%減）となりました。一方、卸売部門の売上高は、「PHマッサージジェルPro.」及び「モイストクリームマスクPro.」を中心とする中国の越境EC向け商品の販売が、大型受注もあり大幅に伸びたことを主因として、1,277百万円（前年同期比71.4%増）となりました。

この結果、化粧品事業の業績は、売上高1,385百万円（前年同期比62.2%増）、営業利益306百万円（前年同期比41.8%増）となりました。

（健康補助食品）

健康補助食品事業におきましては、2009年3月より、「疲労定量化及び抗疲労食薬開発プロジェクト」から生まれた製品である飲料「イミダペプチド」の販売を開始し、現在では、主力の飲料のほか、ソフトカプセル、錠剤、スポーツドリンク等の多種多様な商品ラインナップを有しております。

同事業においては、例年、疲労回復のニーズが高く、広告出稿に対する反応が良好である夏場に合わせて広告宣伝活動を積極的に展開しております。当第2四半期連結累計期間においても、夏場を中心として広告宣伝費を前年同期よりも大幅に増額して投下し、テレビCMの出稿やタレントの起用等も含めて広告宣伝活動を積極的に実施して、販売の一層の拡大を図りました。

この結果、定期購入顧客の増加や広告宣伝活動の効果等により販売は拡大傾向で推移しましたが、前年同期よりも大幅に増額した広告宣伝費の投下ならびに初回購入者に対する割引及び送料無料の適用等により、売上高に比して費用が先行した形となりました。このため、当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期比で増収となったものの大幅な減益となり、営業損失を計上いたしました。このため、当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期比で増収となったものの大幅な減益となり、営業損失を計上いたしました。このため、当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期比で増収となったものの大幅な減益となり、営業損失を計上いたしました。このため、当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期比で増収となったものの大幅な減益となり、営業損失を計上いたしました。

この結果、健康補助食品事業の業績は、売上高1,618百万円（前年同期比24.5%増）、営業損失は95百万円（前年同期は38百万円の営業利益）となりました。

（機能性素材開発）

機能性素材開発事業におきましては、ラクトフェリンをはじめとする機能性素材の開発、販売及び技術供与ならびにアスコロリン誘導体等の化合物をシーズとする医薬品開発等を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、ラクトフェリン原料の販売ならびにラクトフェリンの腸溶加工技術及び脂質代謝改善用途に関する特許提供によるライセンス収入等の売上計上を行いました。

この結果、連結子会社の決算期変更の影響もあり、機能性素材開発事業の業績は、売上高511百万円（前年同期比86.4%増）、営業利益は100百万円（前年同期は7百万円の営業損失）となりました。

これらに加えまして、セグメント間取引の消去や全社費用による営業損失は98百万円（前年同期は123百万円の営業損失）となりましたので、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,017百万円（前年同期比43.9%増）、営業利益は278百万円（前年同期比108.3%増）、経常利益は288百万円（前年同期比104.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は119百万円（前年同期比102.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて177百万円増加（3.1%増）し、5,825百万円となりました。これは主に、現金及び預金が280百万円減少したものの、商品が167百万円、仕掛品が61百万円、投資その他の資産のその他が58百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて100百万円増加（9.9%増）し、1,113百万円となりました。これは主に、前受金が86百万円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて77百万円増加（1.7%増）し、4,712百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を119百万円計上したこと等によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期につきましては、化粧品事業において越境EC向け商品の販売が大型受注等もありさらに伸びる見通しであり、また、健康補助食品事業においても、定期購入顧客数の増加及び積極的な広告宣伝活動の効果等により、販売が増加傾向で推移することを見込んでおります。

その他の事業につきましても、何れも受注状況や販売状況等から増収となる見通しであります。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高、利益とも計画を上回る進捗となっておりますが、現時点においては、化粧品事業において越境EC向け商品の第3四半期連結会計期間以降の販売に不確実性があること等から、2018年11月12日に公表いたしました通期連結業績予想数値に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2018年6月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (2018年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,972,412 | 2,692,159 |
| 受取手形及び売掛金 | 692,025 | 840,917 |
| 商品 | 397,327 | 565,201 |
| 仕掛品 | 404,306 | 466,118 |
| 原材料及び貯蔵品 | 239,788 | 257,579 |
| その他 | 143,240 | 162,655 |
| 貸倒引当金 | △13,149 | △12,633 |
| 流動資産合計 | 4,835,951 | 4,971,998 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 37,800 | 32,471 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 15,794 | 13,820 |
| その他 | 52,477 | 44,651 |
| 無形固定資産合計 | 68,271 | 58,471 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 546,500 | 544,950 |
| その他 | 159,468 | 217,477 |
| 投資その他の資産合計 | 705,968 | 762,427 |
| 固定資産合計 | 812,040 | 853,371 |
| 資産合計 | 5,647,992 | 5,825,369 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 261,621 | 293,394 |
| 未払法人税等 | 91,048 | 160,494 |
| 賞与引当金 | 10,499 | 5,145 |
| ポイント引当金 | 60,618 | 70,602 |
| 前受金 | 290,610 | 377,441 |
| その他 | 287,485 | 194,650 |
| 流動負債合計 | 1,001,883 | 1,101,729 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付に係る負債 | 9,888 | 10,317 |
| その他 | 1,292 | 1,095 |
| 固定負債合計 | 11,181 | 11,412 |
| 負債合計 | 1,013,065 | 1,113,141 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,836,587 | 1,836,587 |
| 資本剰余金 | 1,899,955 | 1,899,955 |
| 利益剰余金 | 743,439 | 811,023 |
| 株主資本合計 | 4,479,982 | 4,547,566 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,032 | 12,733 |
| その他の包括利益累計額合計 | 15,032 | 12,733 |
| 非支配株主持分 | 139,911 | 151,927 |
| 純資産合計 | 4,634,926 | 4,712,227 |
| 負債純資産合計 | 5,647,992 | 5,825,369 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日) |
|---------------------------------------|--|--|
| 売上高 | 2,791,612 | 4,017,614 |
| 売上原価 | 1,174,844 | 1,854,968 |
| 売上総利益 | 1,616,768 | 2,162,646 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,482,988 | 1,883,979 |
| 営業利益 | 133,779 | 278,666 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3,659 | 3,153 |
| 為替差益 | — | 3,043 |
| デリバティブ評価益 | 3,533 | — |
| その他 | 1,168 | 3,367 |
| 営業外収益合計 | 8,361 | 9,564 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 81 | — |
| 為替差損 | 1,029 | — |
| その他 | 64 | 166 |
| 営業外費用合計 | 1,175 | 166 |
| 経常利益 | 140,966 | 288,064 |
| 特別損失 | | |
| 関係会社株式評価損 | 4,403 | — |
| 自己新株予約権消却損 | 3,480 | — |
| 固定資産除却損 | — | 36 |
| 特別損失合計 | 7,883 | 36 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 133,082 | 288,028 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 79,397 | 160,324 |
| 法人税等調整額 | △4,255 | △4,211 |
| 法人税等合計 | 75,142 | 156,112 |
| 四半期純利益 | 57,940 | 131,916 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △1,196 | 12,015 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 59,136 | 119,900 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 57,940 | 131,916 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △1,951 | △2,298 |
| その他の包括利益合計 | △1,951 | △2,298 |
| 四半期包括利益 | 55,988 | 129,617 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 57,184 | 117,601 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △1,196 | 12,015 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2017年12月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2018年12月31日) |
|----------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 133,082 | 288,028 |
| 減価償却費 | 12,459 | 14,363 |
| のれん償却額 | 1,974 | 1,974 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 595 | △515 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 877 | △5,354 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | 543 | 428 |
| ポイント引当金の増減額(△は減少) | 6,659 | 9,984 |
| 受取利息 | △3,659 | △3,153 |
| 固定資産除却損 | — | 36 |
| 関係会社株式評価損 | 4,403 | — |
| 自己新株予約権消却損 | 3,480 | — |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △130,116 | △148,891 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △188,713 | △247,477 |
| 未収消費税等の増減額(△は増加) | 3,383 | △484 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △423 | 31,773 |
| 前受金の増減額(△は減少) | △11,878 | 86,831 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △22,182 | 15,968 |
| その他 | △44,889 | △150,392 |
| 小計 | △234,406 | △106,880 |
| 利息の受取額 | 1,869 | 1,379 |
| 法人税等の支払額 | △138,628 | △65,235 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △371,165 | △170,736 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有価証券の取得による支出 | △200,000 | — |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | △4,923 | △4,380 |
| 差入保証金の差入による支出 | — | △53,924 |
| 差入保証金の回収による収入 | — | 600 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △204,923 | △57,704 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入金の返済による支出 | △51,255 | — |
| 配当金の支払額 | △25,197 | △51,812 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △3,080 | — |
| 連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出 | △237,985 | — |
| 自己新株予約権の取得による支出 | △3,480 | — |
| 新株予約権の行使による収入 | 45,125 | — |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △275,873 | △51,812 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △851,962 | △280,253 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,338,802 | 2,972,412 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 2,486,839 | 2,692,159 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結子会社の決算日の変更)

従来、連結子会社のうち決算日が3月31日であった(株)NRLファーマは同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について必要な調整を行っていましたが、第1四半期連結会計期間より、決算日を6月30日に変更しております。

この決算期変更に伴い、当第2四半期連結損益計算書は、2018年4月1日から2018年12月31日までの9ヶ月間を連結しております。

なお、決算期を変更した(株)NRLファーマの2018年4月1日から2018年6月30日までの売上高は150,553千円、営業利益は23,365千円、経常利益は26,384千円、税引前四半期純利益は26,384千円となっております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2017年7月1日 至 2017年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 (注) 1 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------------|--------------|---------------|---------|------------|-------------|-----------|-----------------------|--------------------------------|
| | 生体評価 システム | ヘルスケア サポート | 化粧品 | 健康補助 食品 | 機能性素材 開発 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 225,395 | 136,467 | 854,128 | 1,300,127 | 274,593 | 2,790,712 | 900 | 2,791,612 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | 478 | — | 478 | △478 | — |
| 計 | 225,395 | 136,467 | 854,128 | 1,300,605 | 274,593 | 2,791,190 | 421 | 2,791,612 |
| セグメント利益 又は損失（△） | 10,717 | △1,195 | 216,369 | 38,727 | △7,704 | 256,913 | △123,134 | 133,779 |

- (注) 1 外部顧客への売上高の調整額900千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。
 2 セグメント利益又は損失の調整額△123,134千円には、全社費用△142,934千円、セグメント間取引消去19,378千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であります。
 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2018年7月1日 至 2018年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | | | 調整額 (注) 1 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------------|--------------|---------------|-----------|------------|-------------|-----------|-----------------------|--------------------------------|
| | 生体評価 システム | ヘルスケア サポート | 化粧品 | 健康補助 食品 | 機能性素材 開発 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 296,314 | 204,116 | 1,385,672 | 1,618,798 | 511,812 | 4,016,714 | 900 | 4,017,614 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | 574 | 21,458 | 22,032 | △22,032 | — |
| 計 | 296,314 | 204,116 | 1,385,672 | 1,619,372 | 533,270 | 4,038,747 | △21,132 | 4,017,614 |
| セグメント利益 又は損失（△） | 47,844 | 17,213 | 306,854 | △95,250 | 100,021 | 376,684 | △98,018 | 278,666 |

- (注) 1 外部顧客への売上高の調整額900千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。
 2 セグメント利益又は損失の調整額△98,018千円には、全社費用△123,818千円、セグメント間取引消去25,474千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であります。
 3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来、連結子会社のうち決算日が3月31日であった（株）NRLファーマは同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引について必要な調整を行っていましたが、第1四半期連結会計期間より、決算日を6月30日に変更しております。

この決算期変更に伴い、当第2四半期連結損益計算書は、2018年4月1日から2018年12月31日までの9ヶ月間を連結しております。

なお、決算期を変更した(株)NRLファーマの2018年4月1日から2018年6月30日までの売上高は機能性素材開発で150,553千円、セグメント利益又は損失は機能性素材開発で23,365千円であります。